
2023年度 日本語教育学会 奨励賞

受賞者 さくらい ちほ
櫻井千穂氏

【授賞理由】

櫻井千穂氏は2013年に大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程を修了されました。日本学術振興会特別研究員（RPD）、同志社大学、広島大学での勤務を経て、現在は大阪大学で研究活動や教育実践、社会貢献に精力的に取り組まれています。文化的・言語的に多様な子ども（CLD児）の教育という分野において、第一人者としてその分野の研究および教育実践を牽引されています。

櫻井氏は、二つの文化・言語環境の中で育つ外国につながる児童・生徒の言語能力の発達を主な研究テーマとされています。中でも読書力の発達や会話力と読書力の関係、二つの言語能力の関係についての研究に積極的に取り組み優れた研究成果を上げられており、それらの一部は単著『外国にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力』（大阪大学出版会、2018年）にまとめられています。また、共著「DLA〈読む〉」の構成概念妥当性の検証ー日本語母語児童を対象としたテキストレベルの妥当性に関する分析ー（『日本語教育』185号、2023年）、単著「外国につながる児童生徒への教育ー課題とその解決に向けた提言」（『ことばと文字』16号、2023年）、真嶋潤子編著『母語をなくさない日本語教育は可能かー一定住二世児の二言語能力』（大阪大学出版会、2019年）など、多くの示唆に富む論文を発表されています。

さらに、『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA』の開発をはじめ、CLD児教育のための汎用的言語能力の参照枠の構築など、言語能力の評価方法の開発や改善、教育現場への普及に貢献されています。また、文部科学省の外国人児童生徒教育アドバイザーの他、文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業 児童生徒等に対する日本語教師【初任】研修」（公益社団法人日本語教育学会受託）の講師、全国各地の教育委員会によるCLD児教育に関する講演や研修会の講師などを多数務め、学校教育現場における人材の養成においても幅広く活躍されています。中でも、学校教育現場の先生方と協働で、児童・生徒の日本語レベルに合わせたカリキュラムの作成や教科内容と日本語指導を統合させた教育の実践・研究などに精力的に取り組まれていることは特筆すべきところです。このように、研究と教育実践とを往還させながら現場の課題に向き合い、現場の関係者と連携・協働して問題解決を目指す櫻井氏の取り組みは、学術研究に根ざした社会貢献として高く評価されるに値するものです。

櫻井氏のこれまでの貢献と、全国の学校教育現場が直面している課題に取り組む真摯な姿勢を称えらるとともに、今後のさらなる活躍に期待して、櫻井氏に日本語教育学会奨励賞を贈ります。

以上
